

日本パーソナリティ心理学会第 81 回常任理事会議事録

日時：2007 年 5 月 26 日（土）17：00～21：00

場所：東洋大学 5 号館 5102 教室

議長：首藤

出席：杉山，渡邊，浮谷，菅原，松田，藤田，佐藤，北村，首藤，東海林（荒川委員長代理），川野，中村

欠席：荒川，小塩，有光

事務局：加藤

報告事項および審議事項

1 各種委員会報告

機関誌編集委員会

* 「パーソナリティ研究」第 15 巻 3 号の印刷状況 6 月発送予定

掲載論文：原著 6，資料 3，ショートレポート 1

* 「パーソナリティ研究」第 16 巻 1 号の編集状況

掲載決定論文：原著 8，資料 2，ショートレポート 5

| 種別 | 題目 | 筆頭者 |
|----|---|------------|
| 原著 | 中高年期の自己評価における発達的特徴：自尊感情との関連，および領域間の関連に注目して | 岩本純子 |
| 原著 | 自己愛的甘え尺度の作成に関する研究 | 稲垣実果 |
| 原著 | 反復性のつらい体験によって形成される「心の傷スキーマ」の実証的研究 闘下感情プライミングパラダイムを用いて | 小田部貴子・加藤和生 |
| 原著 | 状態自尊感情尺度の開発 | 阿部 美帆 |
| 原著 | 児童における 3 タイプの攻撃性が正負感情に及ぼす影響 | 勝間 理沙 |
| 原著 | 自己主体感における自己行為の予測と結果の関係：行為主判別に対する学習課題を用いた検討 | 浅井 智久，丹野義彦 |
| 原著 | 児童・思春期における学校での反社会的行動と自己志向性 | 酒井厚 |
| 原著 | 幼児気質質問紙作成の試み | 武井祐子 |
| 資料 | 医療事故防止におけるヒューマンファクターによるインシデントとパーソナリティ特性の関係分析 | 天野 寛 |

| | | |
|------|--|--------|
| 資料 | 大学生用感情コーピング尺度の作成ならびに信頼性、妥当性の検討 | 内田 香奈子 |
| ショート | 友人との接触頻度別にみた大学生の友人関係機能 | 丹野宏昭 |
| ショート | 日本語版 Paranoia Checklist の作成および信頼性・妥当性の検討 | 山内 貴史 |
| ショート | 日本語版一次性・二次性サイコパシー尺度の信頼性と妥当性の検討 | 大隅 尚広 |
| ショート | 青年期の愛着の内的作業モデルと Big Five : 日本人サンプルでの検討 | 島 義弘 |
| ショート | 新卒女子青年の入職と精神的健康の関連 | 松浦素子 |

* 16 巻特集「語りからみるパーソナリティの発達と変容」

現在 6 本の投稿あり，企画趣旨などの詳細については編集委員会で検討することになった。

* その他の編集状況

平成 19 年 1 月から 5 月の投稿論文総数：28（原著 16、資料 5、ショートレポート 6、その他 1）審査中の論文は 46 本（原著 24，資料 14，ショートレポート 7，その他 1）

* 電子投稿への一本化について

一本化の期日：印刷投稿の廃止，電子投稿一本化は平成 20 年 4 月 1 日投稿分より「パーソナリティ研究」第 16 巻 1 号に広告し，それに伴い編集規定を改定する。

* その他

編集規定，投稿規定等の改正：編集規定は「心理学研究」の手引きに準拠することが提案され，承認された。

超過ページ分の著者負担を検討中。

* 論文転載依頼

安藤・高比良・坂元（第 14 巻第 1 号 2005 年 69 から 79 頁）「インターネット使用が中学生の孤独感・ソーシャルサポートに与える影響」論文の「リーディングス日本の教育と社会」（広田照幸監修：日本図書センター）への転載が承認された。

経常的研究交流委員会

* 経常企画シンポジウム「演劇におけるハウトウ個性記述」

場所：東洋大学、日時：10 月 14 日 14：00 から 17：00

講演者：宮沢章夫（遊園地再生事業団：脚本家・演出家）

パネラー：山登敬之・後安美紀・川野健治

広報委員会

担当常任理事は佐藤達哉，委員長には荒川歩が承認された。

* ニュースレターの配信について

紙媒体での配信を全面的に中止するのかどうか，話し合いがなされ，継続審議となった。

* ニュースレター24号（4月発行済み）

* ニュースレター25号（10月初旬に刊行予定）

2 2006年度決算案・2007年度予算案（藤田担当常任理事）

修正を加えた詳細な決算書を常任理事 ML で検討し，次回の常任理事会で承認を得ることになった。

3 新設委員会報告

国際交流委員会

* ARP（Association for Research in Personality）のニュースレターに日本パーソナリティ心理学会の紹介文掲載された。

P: The Online Newsletter for Personality Science，Issue 1, Spring 2007

（上記HPアドレス：<http://www.personality-arp.org/newsletter01/contents.html>）

本学会の紹介文は，上記HPアドレスの"Reports from Abroad"で見ることができる。

* Samuel Gosling（U of Texas, Austin）の日本心理学会への来日記念企画

国際交流委員会としてワークショップの開催（9月21日）が承認された。

* 次回の記事について（発行は秋ごろを予定）

第16回大会の簡単な報告

機関誌「パーソナリティ研究」の論文から

日本のパーソナリティ研究紹介

選挙規程委員会

検討中であることが報告された。

大会活性化委員会

* いくつかの提案がなされ，大会主催校に伝えられた。

* 大会発表賞

本年も大会発表賞を実施することが承認された。

4 日本心理学諸学会連合

* 資格制度検討委員会からのアンケートに対する理事長の回答について、説明がなされた。検定には1級（仮称）と2級（仮称）があり、1級では必修領域5領域と選択領域1領域の6領域以上の合格者、2級では必修領域2領域以上と選択領域1領域以上の合格者とする。ことに對して、1級と2級との質的な相違を強調すること、1級の基礎資格としての位置づけ、将来的に知識の量を問う以外の試験の可能性を残すことなどの理事長の回答についての説明がなされた。なお、2008年9月14日第一回検定試験実施予定。

5 「臨床発達心理士」関係

認定運営機構

報告事項なし

資格認定委員会

委員会内での、担当者の役割が報告された。

6 事務局報告

* 新入会員報告および審議事項

2月の新入会申し込み（報告事項）：4名の申し込みがあり、3名入会を許可（院生3名）、1名不許可（会則第5条（会員）により）

3月の新入会申し込み（報告事項）：7名（一般2名、院生5名）の申し込みがあり、承認された。

4月の新入会申し込み：28名：一般会員9名、院生会員19名の申し込みがあり、承認された。

* 会勢報告

総会員数 756名

一般会員：515名、院生会員：230名、学生会員：5名、名誉会員：5名、賛助会員：1名

* 第80回議事録報告および審議

承認された。

7 その他

本学術振興会賞受賞候補者推薦の件

今回は推薦しないことになった。

国際文献との契約内容の変更

契約内容に変更があり、承認された。

次回大会主催校（第17回大会）

次回大会校は、お茶の水女子大学という提案があり、承認された。

その他

なし